
大切な人

静香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切な人

【Nコード】

N9889A

【作者名】

静香

【あらすじ】

私のそばにいてくれる大切な人。私のとなりにいつもいてくれる。いつもそばにいてくれると思っていた。

（前書き）

静香です。 またもや短編小説を書いてみました。 今の世の中こういう恋愛がもっと増えてほしいなと思う今日このごろです。

ああ。。。今日も学校か。。。かつたるいな。朝、いつものようにだるいが第一声の私。

髪をブラシでとかしながらばやく。「まなーゆうき君が迎えにきてくれたわよ」一階からお母さんの高い声がなり響く。玄関にいつも元気なゆうきが私を待っている。「まな、おはよう。何だお前その顔、朝からしゃきつとしろよ」はらがたつがさわやかな笑顔に少し元気がでた。

「だって、学校行きたくないんだもん」「何かあったら俺に言えば、守ってやつから」「ありがとう」私はいつもゆうきの言葉に元気づけられる。ゆうきは私の小学校からの幼馴染だ。私は小さい頃から人見知りで集団生活にもなじめないでいた。性格も暗く友達などいなかった。そんな私を見ていたゆうきは私を毎日むかえにきてくれるようになった。ゆうきがいて私も心強い。一人だと学校までの道のりが重く感じるけれどゆうきと一緒にいると道のりも少し軽くなる。「まな、大丈夫か?」心配してくれるゆうき。「うん、今のところは」短い言葉でかたずける私。「そっか」ゆつくり歩いているのにもう学校についてしまった。ゆうきが私の背中をポンと軽くたたく。校門から一歩足をふみだす。ゆうきと私は同じ高校で同じクラスだ。だから何かあってもすぐ分かってしまう。私の机は一番後ろ。前がゆうきの席だ。なんだか私の席だけ暗くうつるのは気のせいか。私は勉強は嫌いではないけれど大勢でひとつの教室を共有するのにいつも疑問を感じていた。そんなことを考えているうちにみるみる根暗になってしまった。給食の時間、私はお弁当を持って屋上に向かった。いつも私は屋上でお昼をすませる。空をながめながら、雲とおしゃべり。独り言だ。昼をすませた後スカートなど気にもせず寝転がった。もうすぐで午後の授業だ。屋上をでる、後ろからふと声をかけられ私はびくついた。「あの。。。あなたゆうき

君の幼馴染よね？あなた、ゆうき君と付き合ってるの？」隣のクラスの子だった。「あ。。。違います。幼馴染ってだけで。」私はしどろもどろに答える。「そうよねえ、付き合うわけないわよね、ゆうき君かわいそうに。。あなたがいつまで弱いからゆうき君いつもあなたにしばらくられてるのよ、私ゆうき君が好きなの。だからあなたゆうき君から離れてよ、分かったわね」私が返事をしないうちにいつてしまった。私は長い間その場に立ち尽くしていた。私・一人・。。

ゆうきはまなが午後の授業に戻らないのをとても心配していた。まな・。。どうしたんだ・。

ゆうきは「先生、ちょっと保健室に行ってください」と教室を勢いよくでた。「まな？おいどうした？」私は廊下の窓から顔をだしてぼーっとしていた。「こないでよ・。。もう私にかまわないで」「どうしたんだよ、急に」「ゆうきは私がいるから自由になれないんだよ」「何言ってるんだ、俺はお前のことを心配して・。。」「ゆうきはまなの手をつかむ。「はなしてっやあっ」涙がいっぱいわきでてる。ゆうきの手は力強かった。いつも優しく背中をポンとたたいてくれるような手とはまた違う手だった。「俺、お前のこと一生守るって決めたんだ」「ゆうき。。」「手がぐいっともっていかれゆうきが私を抱き寄せた。少しおびえて震える私。涙が止まらない。ゆうきが震える私を見て抱き寄せた手で背中を優しくなでくれた。「大丈夫か？ごめんな。」「うん・。。」「ゆうきが手を離し優しい手で私の涙をぬぐいとってくれた。そして、急に視界が真っ暗になった。ゆうきが私の口にキスをした。

（後書き）

いかがでしたか？前回の作品とはまたがらりと変えて考えて書いてみました。主人公まなのような子にとって守ってくれる、そばにいてくれる人は大事な存在なんです。あなたのそばにも守ってあげたくなるような人はいませんか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9889a/>

大切な人

2011年1月11日17時06分発行